

枝葉破碎処理堆肥化事業 [茨城県・取手市]

情報収集官署名：関東農政局 竜ヶ崎統計・情報センター
☎ 0297-62-7835

[取組主体]	
名 称	取手市シルバー人材センター
取組の範囲	取手市
開 始 年 度	平成 10 年度
[補助事業]	
交 付 主 体	市町村
補助事業名	枝葉破碎処理堆肥化事業
計 画 名	粉碎機購入資金

1 取組目的と概要

(目的)

樹木剪定作業で生じる枝葉を原料にして「枝葉熟成堆肥」を生産し、ごみの発生量を削減するとともに、焼却処分費用の軽減を図る。

(概要)

取手市シルバー人材センターでは、平成10年11月から一般家庭から請負った樹木剪定作業で生じる枝葉を原料にした「枝葉熟成堆肥」を生産するため、「取手市枝葉破碎処理堆肥化事業」による粉碎機（処理能力300トン/年）を同市内にあるゴミ焼却場跡地に設置し、堆肥の生産に取り組んでいる。

同施設では、剪定枝（約 150 トン/年）が搬入されると細かく砕き、これを堆積して定期的に切り返しと灌水を重ね、1年をかけて熟成・自然発酵させて、たい肥（約 57 トン/年）を生産している。

生産されたたい肥は、市の広報誌を通してPR活動を行い、堆肥の状況を見て、2ヶ月に1回のペースで販売している。販売価格は、1袋（10 kg）300 円、軽トラ1台 4,000 円とし、園芸ブームやたい肥による土づくりが見直されていることから、毎回完売している。



< - 熟成中のチップ材 - >

2 取組の効果

(効果)

同市では、これまで剪定枝葉を焼却処理していたため、処理過程で発生するCO₂対策が求められていたが、同取組により 150 t/年の剪定枝葉が有効利用されていることから、環境負担の軽減を図ることができた。

また、施設の維持管理費用については、熟成堆肥の販売及び利用者の枝葉処理代で賄っており、市の負担額は環境センターでの焼却処分と比較して年間約 200 万円程度軽減している。

3 現在の課題と今後の展開方向

(課題)

人材センターでの植木手入れ作業の受注増や人材センター以外（市役所管理の街路樹剪定等）からの枝葉の引取りなど、事業を拡大するには枝葉破碎処理時の騒音対策、たい肥を熟成させる場所の確保など作業場面積の拡大が課題となる。

また、破碎機の老朽化に対する備えも必要であるため、市役所と協議を行い機械の買い替えの際、補助金で行なうか、リース契約にするかの検討も必要となる。

(展開方向)

事業の拡大にともなう作業場面積の拡大や破碎機の老朽化にともなう機器の更新については、具体的な対応は定まっていない。

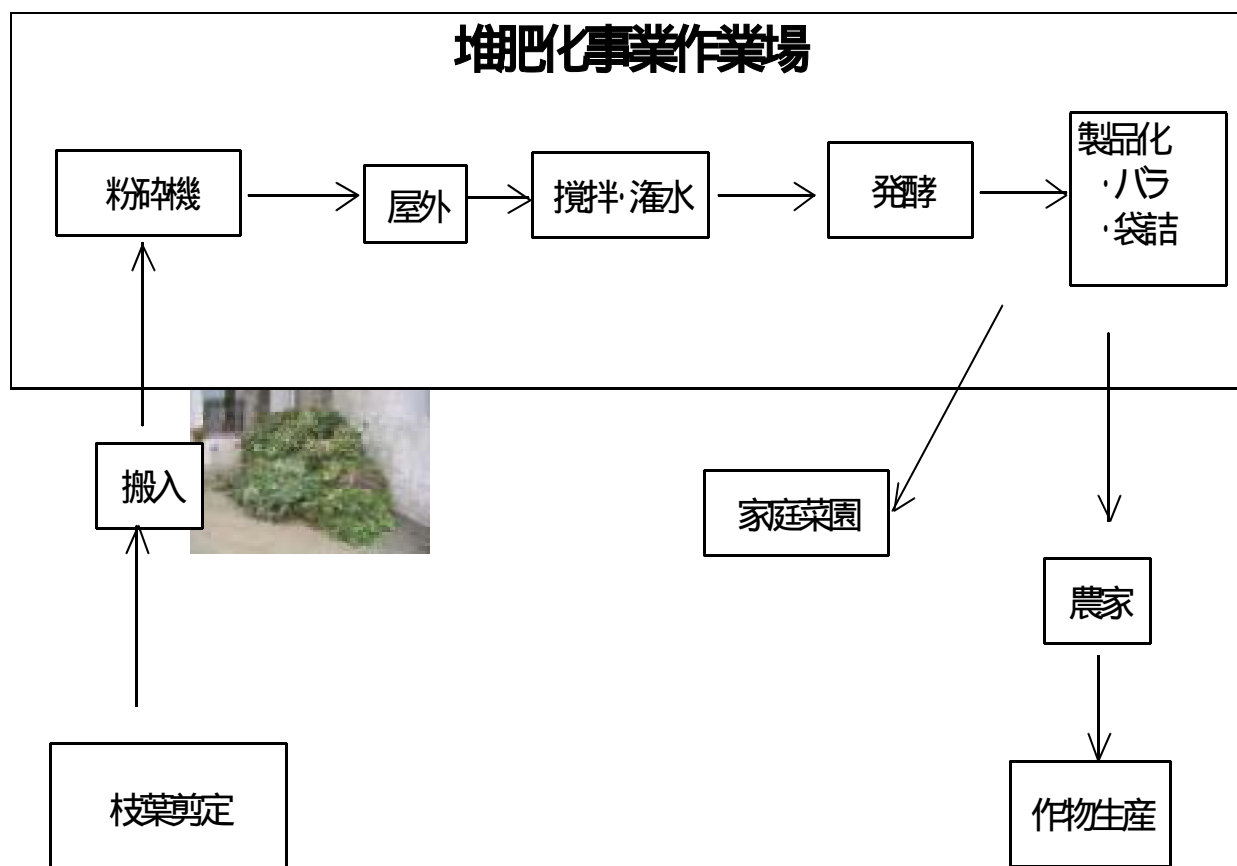
今後、環境問題等により家庭や空き地での焼却が難しくなっているので、枝葉処

理量がさらに増加した場合、たい肥化以外での処理方法として公園遊歩道などのクッション材としての利用も検討していきたい。

「枝葉破碎処理堆肥化事業」の施設概要

施設名称	枝葉破碎処理堆肥化事業作業場	設置主体	(社)取手市シルバー人材センター
運営主体	(社)取手市シルバー人材センター	施設整備費	11,200 千円(家屋除く)
主な設備	破碎機 ミニ・ブルドーザー 薪割機	稼働状況	1日の稼働時間: 8時間 年間の稼働日数: 154日

【施設のシステムフロー】



バイオマスの回収と再利用の流れ

バイオマス名	発 生 源	距離	発 生 量	収集・運搬方法	施設処理能力
剪定枝葉	一般家庭	10 km	150 t/年	人材センタートラック	300 t/年
再生バイオマス名	生 産 量		再生バイオマスの利活用先		
枝葉堆肥	57 t/年		普通畑及び家庭菜園		